

町内5学園 小中一貫教育本格実施！ 計画第2期最終年

小中一貫・CS 通信

NO.13 R2.4.27 幕別町教育委員会 学校教育推進員

北海道全体としては小康状態となっていますが、新型コロナウイルスの猛威が札幌市を含む大都市圏でなかなかおさまらず先の見通しがはっきりしない毎日が続いています。再度の臨時休業も始まり、5つの学園の中には昨年度立案した計画そのもの見直しを進めているところもあります。終息までに長い時間がかかりそうですが、今できることを一つ一つやり切って通常業務再開の日に備えていきましょう。今月号は、各学園の状況や計画の概要等を紹介します。

緊急事態を乗り越えるための知恵を出し合って ～ 各学園の現状、活動計画の概要

4月17日に予定されていた各学園の総会・全体会が、幕別町学校教育振興会総会とともに中止となり年度計画を確定できない状況となっています。この困難な事態を何とか乗り越えるために、知恵を出し合っている現状です。

まくべつ学園では、昨年度立案した計画（案）を文書確認の形で確定し、具体的な実施に向けて準備を進めています。特に、「小中一貫教育による学力の向上」「小中の連携・協働による不登校対応と未然防止」を大きな柱として、昨年行った取組の充実を図るものとなっています。二百数十時間実施した乗入授業や中学校登校、合同あいさつ運動、合同体力テスト、部活動体験等を、改善・充実を図りながら実施しようとする計画となっています。

糠内学園では、立案した基本計画を各校の職員会議等で了承してもらう形で確定する予定ですが、新型コロナウイルス感染予防対策のため、計画の具体は後日検討することになります。部会は4月、6月、8月、10月、2月の5回を予定していますが、開催の見通しが立たない状況です。今年度の主な活動として、共育授業（乗入授業、小小連携授業）の充実、糠内スタンダードに基づく学習指導の徹底・充実、総合的な学習の時間を軸とした小中一貫教育課程の編成、糠内学園研修の充実（教育実践交流会を含む研修活動の充実）等を予定しています。

さつない学園では、「合唱（うた）でつながり育つ9年間」の重点目標のもと、年間計画（案）を立てていましたが、コロナ対策の「三密」回避により、活動の核となる合唱に全く取り組めなくなり、計画の練り直しを迫られています。その件を協議するための「校長等打合せ会」を4月17日に予定していましたが、非常事態宣言を受けて中止となりました。状況を打開すべく4月28日に再度「校長等打ち合わせ会」を札内中学校で開催することにしています。校長・教頭・主幹教諭の10名でよりよい策を考えていきます。

札内東学園では、非常事態宣言のため4月17日の校長教頭打ち合わせ会が延期され、総会中止後の取組についてなかなか確定できない状況になっています。20日に正副学園長である校長が集まり基本方針を協議し、今後、役員会で方向性を確認したうえで、計画案を各校の職員会議等で了承してもらう形で進めることとしました。今年度は、サークル合同研が東

学園3校で開催されるので、その取組を学園実践交流会と兼ねて実施します。これを今年度の最重点としています。また、コミュニティ・スクールのロードマップについても具体的な動きを組み込んで策定し、来年度に備えることにしています。どこまでやり切れるかわからない情勢ですが、新型コロナが落ち着き次第、すぐに活動を再開できるように準備を進めています。

ちゅうるい学園では、非常事態宣言の影響に加え、事務局である2名の教頭が代わったこともあり、学園の取組が軌道に乗るまでもう少し時間がかかるようです。この後、昨年度立案した年間計画等を各校の職員会議等で了承してもらう形で確定する予定です。すでに、英語、国語、算数・数学、社会、理科の小中一貫教育課程が作成され、指導系統表も英語、算数・数学、音楽等で完成しているので、各部が9年間を見通した教育活動のための計画を立てています。今年度も、年3回の中学校登校、実践交流会、新体力テストの合同開催など多彩な取組が予定されています。備品の相互貸借など事務部の力もしっかり発揮される計画となっています。人事異動で入れ替わった新しいメンバーに大いに力を発揮してもらい、知恵を集めて活動を進めていくことにしています。

今年度の重点は、 小中一貫教育の充実とCSの仕組みづくり！の二本立て

小中一貫教育とCS推進のロードマップでは、令和2年度は第2期の2年目最終年となります。第2期は、「小中一貫教育本格実施」「CS導入」を重点としていますので、令和2年度は小中一貫教育の仕上げと来年度のCS本格実施の準備をする年度となります。

小中一貫教育の充実のポイント

昨年までの取組を基礎として明らかになった課題の改善を図り充実していくことや、小中一貫教育の根幹をなす9年間を見通した教育課程を整備し、一人一人の先生方がそれをしっかり理解することがポイントとなります。特に、小1から中3までの9個の学年が9年間を見通してどんな能力・資質を育てるのかを明確にすることが大事になります。「4・3・2型」「5・4型」「6・3型」といった、学習の基礎期、接続期、充実期の区切りをどこに設定するのも大事になります。小中一貫教育は、小学校高学年と中学1年の担任がやるものといった、誤った認識を払拭し、全校で取り組む体制を作り上げることが今年度の重点です。

CS本格実施に向けての準備とは

来年度令和3年度は、CS本格実施を重点とする第3期に入ります。今年度は、その準備を進める一年となります。学校運営協議会が設置されればそれでコミュニティ・スクールとなるのですが、地域の力を引き出し地域とともに子どもを育てる学校となるためには、運営協議会設置後の取組が極めて大事になります。

まずは、どんなCSを目指すのかをはっきりさせることがカギになります。各地で様々な形態、体制で取り組まれていますので、その先進例のどれをモデルにするのかを熟議していくことが必要です。十勝管内でも浦幌町、本別町、上士幌町で全く違う体制が取られています。CSはこうやらないといけないという決まりはありませんので、みんながもっている情報と知恵を集めて見通しを固めていきましょう。そして、今年度中にロードマップを定めることが必須となります。来年度のどの時点で本格実施のスタートとするのかを含めて、しっかり見通しをもつための1年にしていきましょう。

5/12(火)開催予定の小中一貫・CS連絡会議は中止になりました